

人を育てて企業を育てる地域社会



社会貢献

荘内三菱電機商品販売株式会社

飯野 準治

当社は庄内で生まれ、庄内で仕事をしたい

くことを経営の基本にしている。庄内がきちんと繁栄しないと当社の発展もない。地元とともにあるという意識を常に持ち続けながら企業活動を行ってきた。しかし、近年の地域社会を見ると、人間関係が薄らいできているように感じられ、これでいいのかと思うことが多い。企業人としても市民としても、地域社会はどう在るべきか、考え直さなければならぬのではないかと。

若いころからスポーツを続け、今また学校のスポーツ活動や文化活動にかかわる機会が多い。そんな状況に長年身を置いていると、学校と地域社会との関係、先生や生徒や市民の人間性の移り変わりがよく見える。近年は、人に対する思いやりがなくなり、人を尊敬するという気風が薄らいでいるように思う。思いやりや尊敬の念が薄らぐと、人は自分のことしか考えなくなり、地域社会はバラバラになってしまふ。地元とともに歩み続けようとする一人として、そのような社会になっ

とを残念に思わざるを得ない。

鶴岡地域は誘致企業が増えてきたが、古くからある生え抜きの企業はそれほど多くない。生え抜きの商店は直接住民を顧客とすることで存在している。今は県外資本の量販店も進出してきているが、昔から存在している商店は地域社会の顧客と太い絆で結ばれてきた。昭和二十三年設立の当社もそのような企業の一つであり、地域社会に生かされていることに對する感謝の念を常に忘れないように努めてきた。

今年が当社の創立五十周年に当たる。五十周年には盛大にお祝いをしようとするほど前から利益の中からそのための資金を積み立ててきた。当初は記念式典を行うことを考えていたが、十年が経過してみると世の中が変わってしまった。かつてお世話になった人で高齢者と呼ばれる年齢に達した方も少なくない。記念式典を行って一時的な喜びに浸ることが無意味に思えてきた。かつてお世話になった人々の実質的なお役に立つ記念事業に

積み立て金を使うべきではないかと考えた。

だが、何をすればいいのかが分からない。そこで市役所に相談した。すると、市のマイクローバスが古くなり更新しなければならなくなっていることが分かった。そこで、鶴岡市には二十九人乗りマイクローバスを、残りの庄内の市町村には軽自動車をと計十四台のクルマを寄贈することにした。鶴岡市では「福祉バス」として利用されており、間接的にはあるが、かつてお世話になった地域の人々の役に立っていると考えている。

当社の社員はそれぞれの居住地で、体育指導員、団体役員として、あるいはボランティア活動などで社会参加している者が多い。勤務時間中でも必要があればそのような活動に参加することを許可している。会社として奨励してやらせているのではなく、自然にそうなったものだ。専門的な職種が多いので、突然仕事を休まれると仕事に穴があくことになる。仕事と地域活動との調整は自己判断に委ねているが、格別業務に支障をきたすことは

Value Sight 販売

人を育て企業を育てる地域社会



ない。社会参加できない企業人は企業人として未成熟である。社会参加することで人間が始まり、参加することによって人間性が磨かれ、企業人として成長すると考えている。

当社には野球部があり、ユニホームや活動費は会社で負担している。どこの地域にも野

球愛好家が多いが、企業チームがいつでも練習や試合をやる場所は多くない。企業チームが存続できないと、地域社会の野球人口は減ってしまう。地域の野球人口が減ると野球が好きな若者は地域に定着できない。若者を定着させるためにも企業がスポーツの分野で人材育成や場所の確保にもっと力を発揮してもよいのではないか。

同じことが文化活動やボランティア活動についても言えるように思う。地域社会でボランティア活動が広がるには企業の理解がないと盛んにはならないのではないかと。少子化や高齢化が進み地域社会の活力が衰退することが心配されている。企業と地域社会は表裏一体なのであり、地域社会の活力が衰退しては企業も存続できない。ボランティア活動を積極的に奨励する企業がもっと増えてほしいと願っている。

三菱電機は全国を十五ブロックに分け毎年社会貢献事業を行っており、今年はその庄内で行うことができた。企業が社会貢献事業として各種講演会やシンポジウムを開くことは少なくない。しかし、これからは内発的に発想し、発想したことを地域の人々が実践し、地域の課題解決力が向上して力が蓄積されていくことを考える必要があるように思う。県外の人々の話を聞き啓発されることはよいが、啓発されてもそれで終わってしまうてはもったいない。今年九月に出羽庄内国際村で

行った「まちあこしシンポジウム in 庄内」は参加型社会の実現へ向けた催しであり、話し合ったことが地域社会の中で継続的に実践され、実践の輪が広がり住民レベルの課題解決力が向上することを願ったものであった。

仕事で庄内を回って思うのは、各自自治体はそれぞれ立派な事業を行っているが、庄内として見るとバラバラなままであることだ。互いに連携をとってやるべきことは多い。連携をとることができれば力は格段に強まる。意識を変え連携を強化する必要があるが、人間の意識を変えることは難しい。意識を変える前に人間を変えろ」とも言う。しかし、誰かが火をつけなければ意識改革は始まらない。その誰かが登場すれば、共感し同調してくれる人は必ず出てくるように思う。

国も地方も参加型社会の実現を目指している。それは地域社会の人々がどれだけその必要性を理解できるかにかかっている。行政主導を進めても地域の人々が動かなければ実現できないからである。参加することが楽しいと思える雰囲気づくりが必要になる。企業は地域社会の企業市民として、参加の環境整備に取り組みたいものである。

飯野 準治

庄内三菱電機商品販売株式会社社長。鶴岡市上畑町5番4号。昭和3年3月14日、三川町横山生まれ。昭和30年庄内三菱電機商品販売株式会社入社。38年取締役営業部長。昭和58年同社社長。鶴岡市固定資産評価審査委員会委員。鶴岡法人会副会長。鶴岡商工会議所常議員・運営委員会委員長・卸商業部会長。鶴岡産業能力開発学院理事。鶴岡市スポーツ振興審議会副会長。鶴岡ロータリークラブ会員。